

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年2月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992500086		
法人名	社会福祉法人 秋桜会		
事業所名	グループホーム かいなの郷		
所在地	高知県高岡郡佐川町乙3358-7		
自己評価作成日	平成23年11月30日	評価結果 市町村受理日	平成24年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の建物は木をふんだんに使い、温もりと家庭的な雰囲気を大切にしたり造りになっており、日々の支援に当たっては、できるだけ入居前の暮らしと大きく変化が無いように配慮するとともに、手摺りは必要最小限度にとどめたり、オムツはずしなど、利用者の残存能力を活かしながら自立に向けた個別ケアに取り組んでいる。また、入居後も、家族や地域との交流が途絶えることがないように、地域で暮らしていくことを大切に、外出支援なども積極的に取り入れながら地域との交流を図っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会		
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ		
訪問調査日	平成24年1月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域の住宅化が進むやや高台に位置し、昨年5月以来、地域との関わりづくりに努め、事業所で夏祭りに多くの住民の参加を得て交流したり、日常的に散歩時に会った住民や下校時の子どもたちと挨拶を交わすなど、地域に溶け込んでいる。また、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と一体となって事業所の理解を得るよう情報発信をしたり、管理者は日頃から町主催の講演会や検討会等に協力している。職員は感染症対策や家事環境などの各委員会に属し、検討内容を運営に活かしていくとともに、利用者一人ひとりに寄り添い、家族と共に支え合っていく関係を築きながら、日々の支援に取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: かいなの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、出勤時に理念を読み、理念を意識した援助を心がけ、実践につなげている。	事業所開設前に、利用者や家族、地域住民のほか関係者を含めた人のつながりを重視し、職員と話し合って作成した理念がある。職員は、申し送り時や個別ケアの検討などを通して理念を振り返りながら日々の支援に取り組んでいる。	地域密着型サービスを目指す理念があるが、その文言が狙いとするキーワードを付記するなど、職員の意識づけにつなげたり、第三者に目標が伝わりやすくなるよう、さらなる工夫を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近隣の方に積極的に挨拶して顔見知りになったり、部落の作業に参加している。また、夏祭りやクリスマス会など地域の方に参加してもらう行事を実施し、交流するなど、地域との関係を築いている。	町内会に加入し、回覧板の回付や清掃活動などを通して地域との関係づくりに取り組むとともに、事業所主催の夏祭りに多くの住民の参加があったり、散歩時に出会った住民や下校時の子どもたちと挨拶を交わすなど、地域に馴染んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や事業所の行事を通じて、事業所や認知症について理解してもらうようにしている。また、町の長寿大学で認知症に関して説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動内容や今後の活動計画などを報告し、評価を得ている。また、事業所での判断が難しい事柄などについて委員に相談しながらサービスの向上に活かしている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同の運営推進会議を開催している。事業所から利用者の状況や運営・活動などについて報告し、参加委員と意見を交わしている。出された意見や提案は職員間で共有し、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加のほか、日頃から連絡を密に取り合い、情報交換や研修会への参加を通じ、協力関係を築いている。	町の担当課や地域包括支援センターとは、運営推進会議や町主催の研修会のほか、日頃の報告や相談などを通して関係を築いている。また、管理者は町の長寿大学の講師や介護保険計画策定委員会などの委員として協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束となる具体的な行為を理解するとともに、身体拘束禁止マニュアルを確認しながら日々実践している。また、玄関は夜間以外は常に施錠していない。	身体拘束禁止マニュアルを職員に周知し、拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による行動抑制など、気になる場面では管理者から注意を促している。外出傾向のある利用者には落ち着いてもらうまで職員が寄り添いながら支援したり、併設事業所の職員や地域住民から見守りの協力を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は、虐待防止関連法について理解し、日々の状態や身体、精神状態の変化を見過ごすことのない職場環境づくりをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は、権利擁護に関する制度について研修会等で学び、個々に相談があった際には速やかに対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所の理念や運営規程などについて十分説明するとともに、疑問や質問に対しその都度答え、理解と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも利用者や家族が意見や要望を伝えられるように相談窓口を設けている。また、意見や要望があった場合は、必ず職員間で話し合いを持ち、できるだけ意に沿った対応ができるようにしている。	家族の面会時や電話連絡などの機会に意見や要望等を聞いている。転倒予防などのケアに関する意見を受けて介護計画につなげたり、事業所の方針や対応などについて説明している。また、家族会は年度内に設立される見通しがある。	家族会設立の動きがあるが、会合運営をサポートするほか、家族から忌憚のない意見等を出してもらうため、家族のみで話し合う機会を設けることも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は現場に出て、常に職員の意見に耳を傾け、話し合いながら事業所運営に反映させている。	職員会や申し送り時に職員の意見や提案を聞いている。パソコンシステムの管理や物品の購入、手摺り設置場所を厳選するなど、運営に反映させている。また、職員は何らかの委員会に属し、検討内容は運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者から運営に関する報告を受け、職員の勤務状況や態度などを把握している。また、個人面談を行い、やる気をもって職務に就けるよう、環境整備やメンタルヘルズに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回、自己評価と法人評価を実施し、職員の力量を見極めるとともに、研修会への参加を積極的に支援し、個々のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所とは研修報告などの場を設け、交流を深めている。また、外部研修会などを通して他事業所との交流の場を持ち、個別に情報収集を行ったり、情報収集に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に担当者を決め、生活環境が大きく変わる中で本人の不安や要望に耳を傾け、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望などをよく聞き、事業所の対応等について十分説明し、相互の協力や信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の前段階で、本人や家族から情報収集を行い、本人の状態像をしっかりとつかんでアセスメントすることで、利用者ニーズを引き出せるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者は人生の大先輩であることを十分認識し、暮らしの知恵や経験を教えてもらうなど、お互いに支え合い共に向上できる人間関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が連絡を密にとり、事業所の運営に協力を依頼するなど、共に本人の生活を支え合っていく者同士の関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、これまでの地域や近所の方などとの関係が途切れないように、受け入れの制限はせず、馴染みの関係が継続できるように支援している。	友人等の訪問を受けたり、地域の行事に参加した際に知人と声を交わすほか、ドライブ中に思い出の場所を通り、話題にしたりしている。また、家族の協力を得て、行きつけの理美容院を利用したり、墓参りに行くなど、これまでの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、円満な共同生活を送ってもらうため、職員が橋渡しや支えとなるように取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、本人やその家族から相談があれば、親身に相談に応じたり、必要に応じて支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者それぞれの思いや要望、意向を把握できるように努めている。また、意思疎通の困難な方は、家族からの情報や本人の表情などから意向を汲み取るように、職員間で検討している。	職員は、利用者一人ひとりの生活歴等を念頭に、日常の会話の中でそれぞれの意向や希望を把握している。困難な場合は表情や行動などから思いを推察したり、家族の意見を参考にしながら利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人や家族から、これまでの生活歴や馴染みの人や場所、物などの把握をしたり、今までの利用サービスについて担当者から情報を収集している。また、入居後も本人や家族等との関わりの中で、情報を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活リズムやスタイルを把握したり、身心の状態や症状の変化等に留意しながら、本人の有する能力など、総合的に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで、利用者一人ひとりの支援内容を評価し、必要に応じて随時家族に相談しながらプランを作成している。また、利用者の状態に変化があった場合は、先送りせず、現状に即してその都度プランの変更や追加について検討している。	毎月、担当職員が介護計画の目標に対するモニタリングを行い、日頃の利用者との関わりや面会時の家族との会話の中でケアに関する意向等を確認し、計画期間に合わせてカンファレンスを行い、介護計画を作成している。また、利用者の状況や家族の要望等により、現状に即して随時見直し、職員間の共有を徹底している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、ケアの実施状況とその経過をパソコンに入力し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から相談があった場合は、スタッフや管理者も一緒になって話し合いを持ち、できるだけ速やかに柔軟な対応ができるよう検討し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の暮らしを支えてきた社会資源を把握し、今まで築いてきた地域社会との繋がりを大切にし、今後もその関係性が途切れることのないよう支援していくように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医で受診してもらうようにしている。事業所では、本人の状態について主治医と連携をとりながら、必要な医療が受けられるように支援している。	利用者、家族の希望に沿ったかかりつけ医で受診できるように支援している。定期受診の付き添いは家族対応を基本としており、家族の協力を得ている。受診結果は事業所から主治医に照会し、把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、利用者の体調の変化や気づきなどを、職場の看護師や管理者に伝え、相談しながら支援している。また、受診が必要な場合は、家族に連絡し、速やかに適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には見舞いに行き状況を把握するとともに、病院関係者と情報交換をしている。また、日頃より医療関係者と連絡を密にし、対応が後手に回ることのないように努め、入退院時には必ず情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度した場合の対応は、利用者の状態に応じてその都度、家族や主治医と話し合いながら支援している。また、終末期のケアについては、主治医との連携や協力体制を確立し、利用者、家族の思いを大切に取組んでいく方針を職員間で共有している。	入居時に重度化や看取りに関する支援について家族等に説明し、同意を得ている。現時点では全員医療機関での対応を望んでいる。事業所では、利用者の状態の応じて家族等の意向に沿って、医療機関と連携して方針を共有しながら支援していくようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故等の救急手当や初期対応の訓練を行っている。特に、経験の浅い職員を優先して参加させ、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練時に、日中、夜間の避難誘導のシュミレーションを実施している。また、地域の防災委員の協力のもと、地域住民と合同で防災訓練を実施している。	消防署の指導を得て、併設の小規模多機能型介護事業所と合同の防災訓練を実施しており、地域の自主防災会のメンバーの協力を得ている。地域の避難場所は公民館が指定されているが、立地条件などから事業所の活用についても話し合われている。また、災害時に備えた飲食物品の備蓄もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの性格等も考慮しながら対応し、個人の尊厳が守られるようなケアや声かけを心がけている。	利用者の人格を尊重し、先入観を持たずに接することを職員に徹底するとともに、排泄や入浴などの介護の場面や個人情報の扱いについて、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いを表出してもらっている。思いを表しやすいように個室や談話室でゆっくり話を聞いたり、自己決定できる場面づくりを働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった1日のプランはなく、利用者の希望や体調などに配慮しながら、個人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際には自己決定してもらったり、できない場合は職員と一緒に好みの衣類を選んでいる。また、訪問美容や行きつけの美容院に行くなど、その人らしい身だしなみやおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主菜が重ならないように注意し、好み等も聞きながら献立を考え、視覚的にも楽しめるよう、彩りなども工夫して配膳している。また、テーブル拭きや、おしぼり作り、下膳など簡単な準備や後かたづけなどをできるだけ一緒にするようにしている。	在庫品や新鮮食材を買い足しながら調理当番の職員が献立を作っている。野菜の下ごしらえや下膳の準備など、利用者のできることに取り組んでもらうようにしている。また、山菜の皮剥ぎや干し柿づくりの場面では、利用者の経験等を活かして職員が習いながら和やかに取り組む工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士の指導も受けながら栄養バランスに配慮し、食事や水分の摂取状況を把握し、過不足がある場合は、個々に応じて支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの実施を徹底している。利用者の状態に応じて、一部介助など必要な支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、尿意のない方は定時にトイレ誘導をしている。失禁が見られた場合は、時間調節やサインを見落とさないよう注意し、トイレ誘導を実施している。	事業所ではオムツはずしを重視し、入居後は利用者全員布パンツを使用し、状況に応じて紙パンツやパッド、ポータブルトイレなどを併用しながら、トイレでの排泄を基本に自立に向けて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	嗜好品やゼリーなど出水分摂取不足を補ったり、散歩や家事などを通して運動を取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	少なくとも1週間に2日以上入浴できるように支援している。拒否がある場合は、時間帯を調整したり、再度の声かけ、入浴日を後日に替えるなど、工夫しながら支援している。	午前、午後の職員体制が整っている時間帯に利用者の希望に沿って入浴できるようにしているが、今のところ午後の入浴希望があり、概ね2日毎に入浴している。拒否がある場合は無理強いせず、声かけの工夫や日を替えるなどして週に2回は入浴するよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や医師の指示に沿って、日中に適宜休息してもらったり、昼間の身体活動を取り入れ、夜間の安眠につなげる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と介護職員による医療・感染委員会を中心に、薬の作用などの理解を深めている。また、職員がいつでも確認できるように薬剤情報を管理するとともに、症状の変化等の確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所の隣接地を借り上げ、利用者がこれまで培ってきた野菜づくりの知識や知恵を活かしたり、併設の事業所で行っている百歳体操に参加したり、希望に沿って外出するなど、本人本位の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所への散歩や畑の見学など職員が付き添い外の空気に触れる機会を作っている。また、希望に沿って、ショッピングやドライブなど、普段行きにくい所への外出支援も行っている。	日常的に事業所周辺を散歩したり、外に出たがらない場合も畑を見に行くなど、外気に触れる場面を作っている。また、希望に応じて買物やドライブに出かけるとともに、季節の花見や行楽、外食なども計画的に行っている。また、家族の協力を得て外出支援しており、行き先等の確認もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと、少額の小遣いを預かり、外出時のショッピングで本人に支払ってもらったり、見守り等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信の制限は一切なく、利用者の希望に沿って電話してもらったり、携帯電話の持ち込みも可能としている。また、手紙の代筆の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、職員が季節の花や緑を飾り、一緒に観賞するなど話題づくりをしている。トイレの汚物処理など不快感のないよう工夫したり、採光や温度には常に気配りし、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ホールは屋根裏までの広い空間があり、木造家屋ならではの木の香りに包まれている。また、厨房やパソコン機の位置からは居室等が見渡せるようにし、安全確保に配慮している。室内には花を活けたり、観葉植物を置き、ソファーや和室コーナーで利用者が思い思いに過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや和室に、ソファーやテーブルを配置し、仲の良い者同士と一緒に過ごせる場所を確保したり、共用スペースを広くとることで、自分の好きな場所を選んで過ごしてもらうよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、以前使用していた家具、備品を持ってきてもらい、個性が活かした居室づくりをしている。居室内に木をふんだんに使用することで、安らぎと温もりのある空間を提供している。	ベッドや整理ダンス、衣装ケースのほか、家族写真やぬいぐるみ、祭壇や絨毯などで、室内の環境を整え、それぞれ個性がある中で、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には、転倒防止の手すりを最小限度に設置している。通路などには極力手すりなどを設けず、自身で工夫して移動してもらうようにしている。和室(こあがり)を設け、段差など昔からの生活にあった環境を作り、日々の生活の中に残存能力が活かせる工夫をしている。		

ユニット名:

かいなの郷

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				